

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	令和2年度第2回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会
開催日時	令和2年12月4日(金) 13:00~13:30
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 3階 中会議室
議題	1. あいさつ 2. 協議事項 (1) 生活交通確保維持改善計画の変更について 【資料1】 3. その他
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料1】 生活交通確保維持改善計画の変更(案)
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	0人
出席委員	立花会長、下田委員代理 大津氏、山下委員、西川委員、濱口委員、小寺委員、田畑委員、福田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	伊藤委員、清水委員、木下委員、高木委員、今井委員
事務局	定期船課 世古、角谷

1. あいさつ

○事務局長

- ・開会
- ・配布資料の確認

○会長挨拶

平素は、本市の定期航路事業ならびに新型コロナウイルス感染拡大防止対策等につきまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本日の会議は6月の当幹事会で承認を得て中部運輸局に提出いたしました、生活交通確保維持改善計画の変更についてご協議いただきたいので、委員の皆様のご忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 協議事項

(1) 生活交通確保維持改善計画の変更について

○事務局長

資料1について説明。変更内容については、来年度より第25鳥羽丸の代替船舶建造に向けた事業を実施したく同計画の離島航路構造改革事業へ船舶建造についての記述を追加した。

○委員

第25鳥羽丸以外にも旧船があるが、離島航路構造改革事業に係る定量的な目標・効果として、修繕費等の減少が見込まれると経費の削減が謳われている。実際に新しく船舶を建造した場合、定期検査を含めた修繕費について高額傾向だと思うがどの程度見込んでいるのか。

○事務局長

新しく建造することで、老朽化による部分の修繕費が減額するという意味合いでの記述となっている。

○委員

ランニングコストはどうか。

○事務局長

ランニングコストは現在の船と変わらない。老朽化による故障等で修繕が必要となるが、新しくすることでその部分が減額となる。年に1回検査を行っており、5年に1度大きな定期検査があり費用がかかる。1千万円を超える経費となるが、船を新しくすることで検査にかかる費用も安価になると考えている。

○委員

今までに小型化の話があったが、そういった検討はこれからか。

○事務局長

小型化については随分前から定期船課内でも検討はしていた。第 25 鳥羽丸の代替船舶の案としては、双胴船での高速船は建造費が高額となるため、単胴船で一回り小さい船を考えている。現行が 70 トンくらいだが、60～50 トン程度のもを考えている。小型化ということで 19 トン程度でも検討したが、1 つの船で全ての航路に対応が必要であり、気象・海象条件を考えると小型化すると欠航の可能性が高くなってしまう。また、生活物資の輸送があることも踏まえて、現行より一回り小さくし、高速船に近い性能の船を考えている。

○委員

もう中での検討は随分進めているのか。

○事務局長

まだこれからの話ではあるが、定期船課内での案となる。今後のスケジュールとしては、この変更案が認められれば来年度から代替船舶建造に向けての取り組みが始まる。令和 3 年度は航路経営診断があり、その診断結果をもとに船舶建造に向けての協議会を設置し、航路改善計画の策定を行う。航路改善計画が認められれば令和 4 年度に船舶の基本設計、令和 5 年度に船舶の建造、令和 6 年度に新船舶が就航するというプロセスになる。

○委員

個人の感覚だが修繕費について今の新しい 3 隻の上架以外での突発的な故障が最近多い。旧船より多いように感じるが大丈夫か。

○委員（事務局）

先月答志のかがやきがエンジンの整備をしたばかりだったが 2 回故障となった。それぞれ違う箇所の故障であり、整備不良ではなく部品不良でもなく原因は現在調査中。新しい船だから壊れるというわけではない。

○委員

住民としては嬉しいことではあるが、ダイヤより早く到着する便があり、とばしすぎているのではないか。それが故障の原因の一つではないのかという気がしてしまう。

○委員（事務局）

スピード出すことが故障の原因ではない。速度について規定のガイダンス内で運航するよう指導している。

○委員

とくに最終便は早く到着しているように思う。

○委員

もちろん早く着くことは嬉しいことだが、それがエンジンの負担に繋がって故障の原因では心配している。

○会長

乗っていてハラハラすることはあるか。

○委員

それはない。

○事務局長

船員も日々整備を行い故障により利用者の迷惑とならないように努めているが、エンジンの中のことまではわからないこともある。1 年 365 日運行しているので、どこかに負担はかかっていると思う。

○委員

令和 3 年度に経営診断を受けて航路改善計画を作成するとのことで、今 50～60 トンくらいで計画しているとの話があったが、経営診断の結果を受けて船舶建造の計画を見直す可能性もあるか。

○会長

もちろんある。まだ内々での計画である。

○事務局長

協議会の中で他の案が出ることも想定され、今後変更が出てくる可能性はある。あくまでも課内での案ということである。

○委員

住民としては欠航が少ない船がよい。

○事務局長

承知している。なるべくそういった影響を受けにくい船をと考えている。

○委員

前回の船舶建造時に携わっていたが、その時は中で揉まれた内容について委員が意見してもなかなか変わらなかった。そうなる前に案を提示してもらわないと意見が通らない恐れがある。事前に提示してもらい意見を取り入れてもらわないと、委員の存在価値がなくなってしまう。

○事務局長

前回「しおさい」が協議会を設置し建造に至っている。協議会委員は定期航路幹事会の委員と税理士に入ってもらっていた。先ほどの案について、50～60トンくらいのFRP単胴船、エンジンは2基2軸、定員は立ち席を含め約200名と考えている。これをもとに協議会で協議していただくことになる。

○委員

第25鳥羽丸は定員何名ですか。

○事務局長

330名。

○委員（事務局）

現在はバリアフリー対応や、荷物のスペースを考える必要があり、現在運航しているような大きな船を建造することは難しい。

○委員

代替船舶建造にかかる費用について市の全額負担となっているが、補助金は使えないのか。

○事務局長

補助金はあります。「しおさい」建造時は、国・県あわせて約6700万円、バリアフリー施設整備で約980万円の補助があり、建造費は約3億5千万円だった。10分の1程度が補助金で、残りは市が借り入れることになる。

○会長

承認いただきました生活交通確保維持改善計画につきまして、中部運輸局へ提出します。

3. その他

○委員

以前に比べて欠航回数が多いように思う。海上保安部がうるさいと聞いているが、風がなく港や海を見ても普通のポートでも大丈夫そうなのに台風の接近により欠航してしまう。

もう一つ、警報や注意報が伊勢市、鳥羽市に発令されても志摩市や尾鷲市には出ていないのがわからない。気象庁の見解なのかわからないがおかしく思う。

○委員（事務局）

台風での欠航について、桃取でまだ風がなくても佐田浜で吹いているということはある。また、暴風警報が発令されると、欠航せざるを得ない。警報発令中に運航しているといつまで運航しているのかと保安部から連絡が入る。警報の出方については台風の進路による影響があるのではないかと。

○会長

精度が上がっているので、昔のように広域ではなく地域ごとに発表されるようになってきている。警報が出てしまうと仕方ない部分もあるかと思う。

○委員

保安庁から止めなさいと連絡があるのか。

○委員（事務局）

いつまで運航しているのかという注意である。運航基準に基づいているかの確認であり、基準に達する恐れがある場合には順次欠航していくという流れとなる。

6. 閉会

○立花会長

令和2年度第2回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会の議事については全て終了しました。